

理科におけるアクティブ・ラーニングの三つの視点からの不断の授業改善について

- ① 習得・活用・探究という見通しの中で、教科等の特質に応じて育まれる見方・考え方を働かせて思考・判断・表現し、学習内容の深い理解や資質・能力の育成、学習への動機付け等につながる「**深い学び**」が実現できているか。

自然の事物・現象について、理科における見方・考え方をを用いて、探究の過程を通して学ぶことにより、資質・能力を獲得するとともに、見方・考え方も成長する。さらに、獲得した資質・能力や成長した見方・考え方を次の学習や日常生活など（問題発見・解決）に活用することによって、「深い学び」につながる。なお、「深い学び」のためには、「対話的な学び」や「主体的な学び」が重要である。

例えば・・・

- ・観察・実験などの学習の過程を振り返って**変容を自覚したり表現したりする学習場面**を必要に応じて設けること。
など

- ② 子供同士の協働、教師や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自らの考えを広げ深める「**対話的な学び**」が実現できているか。

例えば・・・

- ・課題の設定や検証計画の立案、観察・実験の結果の処理、考察・推論する場面などでは、あらかじめ個人で考え、その後、互いに意見交換したり、議論したりして、自分の考えをより妥当なものにする学習場面を設けること。
など

- ③ 学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる「**主体的な学び**」が実現できているか。

例えば・・・

・自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって課題や仮説の設定や観察・実験の計画を立案したりする学習場面を設けること。

・観察・実験の結果を分析・解釈して仮説の妥当性を検討したり、全体を振り返って改善策を考えたりする学習場面を設けること。

・得られた知識や技能を基に、次の課題を発見したり、新たな視点で自然の事物・現象を把握したりする学習場面を設けること。
など